

## 日本遺産を通じた地域活性化計画実績報告書 II. 取組内容に対する評価

① 日本遺産のタイトル	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田
-------------	-----------------------

### ② 評価項目ごとの個別評価

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(1) 組織整備	・個人サポーター、法人パートナー数	協議会に参加している事業者の数	5団体	可	オール行田で足袋を盛り上げる体制づくりができたといえる。ふるさと納税については <b>数値としては未達成ではあるものの、特に制度変更前は多くの寄付を集めており、日本遺産に認定されたことが好影響を与えていると考えられる。</b>	
	・協議会の収益額（協賛金、ふるさと納税額等）	ふるさと納税の日本遺産活動への寄附額の上昇率	65%			
	取組内容		具体的な取り組み内容		評価	評価判定理由（取組内容）
	ふるさと納税返礼品の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型返礼品など、魅力ある返礼品の充実に努めた。</li> <li>・募集チラシを作成し商工会議所を通じて市内事業者にPR</li> <li>・ポータルサイトの用途選択画面で認定5周年をPR（R4）</li> </ul>		可	行田おもてなし観光局がリーダーシップを発揮し、各種イベントを開催するとともに、足袋の事業者が自発的に足袋の手作り体験施設を開設するなど、 <b>官民一体の日本遺産を核とした各種事業の取組が加速している。</b> ふるさと納税は制度変更の影響を受けて当初の目標値は達成していないが、返礼品を充実させることにより金額は上昇しており、本市にも寄附文化が着実に根付きつつある。 また、 <b>行田足袋のさらなる発展を目指し「行田足袋振興会」が設立され、足袋関連事業者による活動も活発化してきている。</b>
	行田おもてなし観光局によるリーダーシップの発揮		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行田おもてなし観光局」が、忍城址等での<b>ライトアップイベントや花手水イベント、外国人散策企画等を開催。また観光情報館「ぶらっと♪ぎょうだ」を改装し、地元物産品販売等を行った。</b></li> <li>・観光案内所の<b>展示を刷新（R3）</b></li> </ul>			
	民間企業による国外での展覧会における日本遺産PR		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の民間企業（足袋製造業者）が、フランスでの展覧会において、行田足袋や日本遺産のPRブースを設け、現地の方々へ積極的に情報発信を行った。</li> </ul>			
	民間企業による足袋の手作り体験施設開設		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の民間企業（足袋製造業者）が、足袋の手作り体験施設を開設した。</li> </ul>			
	ガイドンスセンター設置とNPOとの連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度にガイドンスセンターを開設。「足袋蔵まちづくりミュージアム」と同じ建物内で運営し、集客効果の増大を図った。</li> <li>・構成資産4施設をNPOによって活用し、情報発信。</li> </ul>			
行田足袋振興会の発足		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>行田足袋の発展を目指すため、足袋関連事業者により自主的に組織され、運営されている。行田足袋が、経済産業省の「伝統的工芸品」に指定された際、指定母体となった。</b></li> </ul>				
個別評価						
可						

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(2) 戦略立案	・ブランドカ、ブランド認知度	日本遺産に認定されていることを認知している割合	66%	可	市中心部の「あらまちアーケード」には周知のための看板なども整備され、地域における日本遺産の認知度や、 <b>コンセプトの浸透という面</b> では一定の水準をクリアしている。	
	・地域コンセプトの浸透度（地域内、外）	市民意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる割合の上昇率	89%			
	取組内容		具体的な取り組み内容		評価	評価判定理由（取組内容）
	足袋蔵等再活用のマーケティングリサーチ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOによる建物現況調査（構成資産10件16棟・H29、30）</li> <li>・所有者に対して今後の保存・改修等の意思確認や活用の意向調査を実施し、活用の指針とまちづくりイメージ図の作成を行った。</li> </ul>		可	利活用（再活用）となった足袋蔵の件数はいずれも当初の目標通りの数値を達成しており、計画的な活用が進んでいる。また、継続的な足袋蔵の詳細調査や、今後を見据えた足袋蔵ロゴマークの作成を行うなど、足袋蔵を中心とした戦略が明確化した。
	足袋蔵公開に向けた取組み（NPO活動支援など）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・足袋蔵所有者に対し、足袋蔵整備のための補助事業を案内</li> <li>・NPO主催イベント「蔵めぐりまちあるき」を支援し、公開に向け働きかけを行った。</li> </ul>			
	足袋蔵等近代化遺産の詳細調査		<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業としてH29～R1に各1棟、構成資産の足袋蔵の詳細調査を実施。</li> <li>・市独自に、H29・30・R2・3年度に詳細調査を実施。</li> </ul>			
	「日本遺産一斉公開」の開催		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度に構成資産の公開・活用のために「日本遺産一斉公開」を開催し、参加者の行動調査も実施した。参加者は約500名。</li> </ul>			
	足袋蔵ロゴマークの作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定5周年を記念し、足袋蔵をイメージできるロゴマークを作成した。</li> </ul>			
個別評価						
可						

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(3) 人材育成	・地域プロデューサー数	まちづくり・観光系のNPOの数	10団体	可	市内では、数多くのNPOが市民公益活動登録団体として登録を受けている。また、観光ガイドについては、おもてなし観光局のもと活動する仕組みができあがっている。加えて、協議会の委員それぞれの事業で日本遺産のPRに取り組んでいただいております。地域活性化に一役買っている。	
	・地域プレーヤー数	足袋蔵コーディネーター及び観光ガイドの数	集計中			
	・地域活性化の活動の頻度（ワークショップ数など）	協議会開催数	7回			
	取組内容		具体的な取り組み内容		評価	評価判定理由（取組内容）
	行田みらい塾の開催	・人材育成事業として、「行田みらい塾」を開催。計3回のワークショップを行い機運醸成を図った。プレ開催のH29は登録者59名、本格開催のH30は登録者48名で修了者17名、R1は登録者30名で修了者13名。		可	行田みらい塾修了者の中から有志らにより、令和元年9月に足袋をテーマにした市民や観光客参加型のイベント、「忍城オリムピック」が開催されるなど、民間レベルでの地域プレーヤーの発掘が進んでいる。観光ガイドの利用回数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少したが、今後回復が見込まれる。また、足袋業者の中には、職人の高齢化や技術の継承問題等を解決するため、高等学校卒業生を積極的に採用し、職人確保・育成に繋げており、ひいては日本遺産の振興にも寄与しているところである。	
	観光ガイド育成	・観光ガイドの新規育成と既存観光ガイドの人材育成を行うため、H29、30に観光ガイド研修を実施し、H29は136回、H30は142回の利用があった。R1は101回、R2は24回の利用があった。				
	足袋蔵コーディネーター養成講座の開講	・足袋蔵等の保存・活用をアシストする人材の育成を行った（H30）。21名が受講、10名が修了。 ・修了者及び受講者が、日本遺産関連イベントの際にガイドやイベントの補助等で活動を行っている。				
	足袋事業者による若者の積極採用	・足袋事業者の一部では、高等学校卒業生などの若者を積極的に採用する動きが見られるなど、世代間継承に向けた取組みが行われている。				
	後継者育成のための足袋のテキスト作成	・令和3年度に、商工会議所が県の補助事業により後継者育成のための足袋のテキストを作成した。				
	個別評価					
可						

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(4) 整備	・観光客の理解の深まりに関する満足度	アンケート調査による観光客の満足度	79%	可	地元関係者にコンセプトへの理解が広まり、説明に熱がこもって観光客の満足度向上につながった。	
	取組内容			評価	評価判定理由（取組内容）	
	パンフレット等の作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>PRパンフレット、のぼり旗、看板ポスター制作（H29）</li> <li>観光ガイドブック製作（H30）</li> <li>構成資産のガイドブック製作（R1）</li> </ul>	可	<p>日本遺産を伝えていく環境整備には特に力を入れており、様々な種類のパンフレットやのぼり旗、看板ポスター、ガイドブック、多言語音声ガイド、構成資産のサブストーリーの作成や改修など、いろいろな手法を用いて分厚い事業展開を行った。その結果、日本遺産の認知度は高い割合を誇っている。同時に、日本遺産ホームページや博物館音声ガイドの多言語化も実施し、インバウンドに対応すべく外国人への情報発信も積極的に行ってきたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実績としては現れなかった。</p>	
	足袋製造用具及び製品の資料整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>『行田の足袋製造用具及び製品 資料整備報告書』を刊行（H31）</li> <li>その成果をもとに、「行田の足袋製造用具及び関係資料」として5,484点が国重要有形民俗文化財に指定（R2）</li> </ul>			
	多言語音声ガイド導入、パネル設置、リーフレット作成・再版		<ul style="list-style-type: none"> <li>多言語音声ガイド導入、「足袋をつくる」「行田足袋の歴史」製作、上映（H29）</li> <li>展示パネル設置、構成文化財の所在地を記したリーフレットの作成（H30）</li> <li>行田足袋のリーフレットを再版（R3）</li> </ul>			
	サブストーリーの作成・普及		<ul style="list-style-type: none"> <li>構成資産ガイドブックを作製（R1）、建築に関する情報だけでなく各構成資産が持つ詳細な物語をそれぞれ盛り込んでいき、味わいのあるものに仕上げた。</li> </ul>			
	旧忍町信用組合店舗の移築・改修・復原		<ul style="list-style-type: none"> <li>旧忍町信用組合店舗について耐震補強を行い、エレベーター設置等再活用のための改修・整備も行った。現在は子育て世代が活躍できるカフェ「Vert Café（ヴェールカフェ）」として再活用を図っている。</li> </ul>			
	行田市日本遺産推進協議会ホームページの作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会ホームページを作成・公開し、構成資産についての解説を掲載（H29）</li> <li>英語版・フランス語版のホームページを作成し、外国人を対象とした情報発信を強化</li> </ul>			
個別評価						
可						

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(5) 観光事業化	・観光客の入込数・滞在時間・消費金額（客単価）	観光客入込み数	57万人	可	・新型コロナウイルス感染症の影響で減少したが、経済活動の回復に伴い回復が見込まれる。	
	取組内容		具体的な取り組み内容	評価	評価判定理由（取組内容）	
	JAPAN EXPO出展	・ JAPAN EXPO（フランス・H30）に市内足袋事業者とともにPRブースを出展、パンフレット配布や足袋販売などを実施。最終日にはステージイベント（足袋のファッションコンテスト）を開催して行田の足袋をPRした。			可	JAPAN EXPO出展や日本遺産サミット出展など、魅力を遠方の方にも知ってもらうための取組みも積極的に行った。また、足袋蔵モニターツアーや足袋づくり体験ツアー、近代化遺産見学ツアーなど、メインコンテンツである足袋蔵の情報発信のためのツアーも数多く実施した。また、新たな観光客の掘り起こしや、関心のある層を対象に、令和4年度には新たにクイズラリーを実施し、構成資産の隠れた魅力を伝えることができた。 また、足袋製造事業者自らが、「足袋づくり体験館」を整備し、足袋作り体験や足袋の歴史に触れることのできる機会を創出した。
	足袋蔵モニターツアー・足袋づくり体験ツアー等の実施	・ 足袋作り体験を含む意見集約のためモニターツアーを実施（H29、30） ・ 「行田市の日本遺産を巡る～足袋蔵等近代化遺産見学ツアー～」を4回開催				
	日本遺産サミット出展	・ 各地で開催された日本遺産サミットへ出展するとともに、PR映像「行田市の日本遺産・足袋蔵等近代化遺産の魅力」を作成・公開した。				
	案内板等の作成	・ 各種案内看板（道路案内板、総合案内板、案内看板、説明板等）の設置及びステッカーを作製（H29～R1）				
	クイズラリーの実施	認定5周年を記念し、市民や観光客向けのクイズラリーを開催（R4）、申込不要として観光客が気軽に参加できるよう配慮した。また、参加賞だけでなく抽選での賞品も用意し、動機付けにも工夫を凝らした。				
	足袋事業者による観光施設整備	足袋事業者において、足袋の仕上げ体験やマイ足袋体験のできる施設や、伝統ミシンと職人の匠技を目にすることができる施設の整備が進められ、ものづくりの枠を超えた新たな産業が育成されている。				
	半足袋の商品化	・ 伝統的な行田足袋である白足袋のほか、女性や子どもをターゲットとした、色柄のついた半足袋（柄足袋）の商品化を行うことにより、購買層の拡大に寄与している。				
	個別評価					
可						

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(6) 普及啓発	・学習体験をした生徒の数	日本遺産を含む郷土学習を行った小学校数	16回	可	ふるさと学習での学びの深化や足袋事業者による小学校での足袋作り教室の開催など、児童らに郷土学習を提供できる機会が十分に確保された。また、民間主導のイベントも多く行われており、盛り上がりを見せている。	
	・日本遺産の認知度	日本遺産に認定されていることを認知している割合	66%			
	・民間主導のイベントの数	市内における民間主導のイベント数	4回			
	取組内容		具体的な取り組み内容		評価	評価判定理由（取組内容）
	周知啓発の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本遺産パンフレットを全戸配布、各構成資産にスポットを当てたパンフレットの配布（H29）</li> <li>・ガイダンスセンターの開設や各所でのPRブース開設、日本遺産勉強会（連続講座）開催など啓発事業の実施</li> </ul>		可	<p>マイ足袋づくり体験や足袋工場見学など、手足を使った実体験による学びを通して、児童生徒の中に着実に郷土愛が芽生えている。巡回展示のアンケート調査では地元の足袋産業に気づきが得られたというコメントもあり、座学だけでは見えてこない歴史や文化を学ぶ良い機会となっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度・3年度は中止した足袋検定については、多くの参加者を誇っていたものであり、認知度向上に多大な貢献をした。</p> <p>市の取組みに呼応して、平成29年度には商工会議所が日本遺産の暖簾を作成して会員に販売しており、多くの市内商店の軒先に掲げられるなど、市や協議会以外の団体による自発的な取組みも進んでいる。</p>	
	足袋の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行田の足袋」を教育課程社会科に位置づけ（H29）</li> <li>・各小中学校に「ふるさと学習」を位置づけ、各学校で児童生徒の学びを深める。（H30～）</li> <li>・社会科副読本の中に「行田の足袋」について資料掲載、日本遺産の記述を加えた（R2～）。</li> </ul>				
	マイ足袋づくり体験・足袋製造見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校全3年生がマイ足袋づくりを体験（H29、30）</li> <li>・小学校の児童を対象とした足袋蔵や足袋工場における足袋製造工程の見学</li> </ul>				
	日本遺産巡回展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校における日本遺産巡回展示（R3は5校、R4は12校で実施）</li> </ul>				
	足袋検定の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題作成し受付で配布、郷土博物館常設展示室等で展示資料を見ながら問題を解き、終了後に受付で答え合わせをし、全問正解なら「合格認定証」を授与する。</li> </ul>				
	古文書講座「行田足袋商の古文書を読む」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成文化財「秋山家文書」をテキストとして使用した古文書講座を実施（郷土博物館で定期的に行っている講座の一環であり、今後も同様の講座を開催予定）。</li> </ul>				
個別評価						
可						

評価項目	評価指標	具体的な指標	実績値	評価	評価判定理由（評価指標）	
(7) 情報編集・発信	・ウェブサイトのページビュー	おもてなし観光局のホームページのページビュー（閲覧数）	集計中	可	行田おもてなし観光局が構成資産のライトアップイベントを開催するなど、日本遺産を盛り上げる環境が整っている。行田おもてなし観光局への関心は高まっており、民間発信ならではの、市民の心をつかむコンテンツ作りが功を奏しているといえる。	
	・更新回数、投稿数	おもてなし観光局のホームページの更新回数	集計中			
	・フォロワー数などのエンゲージメント数	SNSでの情報発信に対する「いいね」の数	1,279人（JAPAN EXPO）			
	取組内容		具体的な取り組み内容		評価	評価判定理由（取組内容）
	ウェブサイトやSNS、PR動画等による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイト、多言語対応のPR動画を作成（H29）</li> <li>・ウェブサイトの多言語化を実施（H30）</li> <li>・インフルエンサーを活用したPR動画作成、多言語での記事発信（R1）</li> </ul>		可	ウェブサイトやPR動画といったデジタルな情報発信だけでなく、市内でも来場者数の多い施設である郷土博物館において足袋関連の展示を充実させるなど、デジタル・アナログそれぞれの長所を生かした情報発信を行うことができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で現在は休止しているものの、文化活動を行う団体（文化団体連合会）と連携した日本遺産コンテンツの活用を定期的に行った。	
	郷土博物館における足袋関連の展示の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国重要有形民俗文化財に指定された郷土博物館所蔵の足袋関係資料を中心とした展示（R2）。</li> <li>・企画展「足元から紐解く生活史」で足袋産業紹介（R3）</li> </ul>				
	文化団体連合会との連携による「テアトル・ヴェール」の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧忍町信用組合店舗において、文化財活用イベント「テアトル・ヴェール」を開催し、書展や絵画展、写真展やダンスの披露などを行った。</li> </ul>				
	日本遺産セミナー・日本遺産連続講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デービッド・アトキンソン氏ほかを講師に迎え、日本遺産セミナーを開催（H29・163名来場）。</li> <li>・日本遺産連続講座開催（H29・全6回、受講者延べ110名）</li> </ul>				
	フィルムコミッションの活用による日本遺産の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足袋蔵、忍城址、フライなどの構成資産が映画、テレビ等へ取り上げられ、地域活性化や観光振興に寄与するとともに、日本遺産に対するPRが図られた。</li> </ul>				
個別評価						
可						

### ③ 取組内容に対する総合評価

総合評価	可	
総合評価判定理由	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 行田おもてなし観光局が観光事業の中核を担うようになり、リーダーシップの発揮できる環境が整っていることや、足袋蔵というメインコンテンツを継続的に調査し、活用可能性を探れている。</li><li>・ 足袋蔵ツアーの開催により知名度の向上を図ったほか、行田市の副読本への資料掲載やマイ足袋づくり体験などにより、児童生徒にも広く日本遺産を認知させることができた。</li><li>・ 市内の足袋事業者が自発的に学校で足袋づくり講座を開催したり、日本遺産巡回展示に協力する学校数が増えるなど、普及啓発が着実に実を結んでいるといえる。</li><li>・ 絶え間ない情報発信や文化団体連合会とも連携したコンテンツ活用の取組みも行っており、総じて日本遺産によるまちの活性化が図られたといえる。</li></ul>	